

番号	SS部門名	SS部門名(英文訳)	主オーガナイザ	副オーガナイザ	SS概要(300字以内)	発表者全員の氏名
1	ITSのこれからを考える	Future Direction of ITS	松本修一(慶應義塾大学 理工学部)		ETCやカーナビなどの普及、情報基盤と社会基盤の融合により、ITSは先進技術の検討段階から社会に浸透させるための新たな段階となるべき転換期を迎えている。また、電気自動車やエネルギー問題、防災・耐災など新たな諸課題にITSがどのように貢献すべきかという議論もはじまってきた。更には、今後の予算の枯渇に対し道路の維持管理にもITSが積極的に寄与すべき時代が到来する。本セッションでは、このような動向を踏まえ、ITSの今後の方向性を議論する。	松本修一(慶應義塾大学 理工学部)(オーガナイザー) 桑原雅夫(東北大学大学院 情報学研究科) 奥村康博(国土交通省道路局ITS推進室) 金澤文彦(国土交通省国土技術政策総合研究所) 大西啓介(ナビタイムジャパン) 鳩山紀一郎(東京大学 工学部)
2	再考「B/C」	Cost-benefit analysis reconsidered	小池淳司(神戸大学大学院)	藤井聡(京都大学大学院)	わが国では費用便益分析が社会基盤整備の妥当性を評価する手法として定着している。経済学者などは、費用便益分析が適切に用いられれば、適切な社会基盤整備が実現できると信じている。一方で、「費用便益分析では本当に必要な道路は採用されない」「費用便益分析は道路整備の一部の便益しか評価していない」などの批判があることも事実である。本セッションでは、費用便益分析の有用性と限界を、様々な角度から、今一度考察することを目的としている。	オーガナイザー: 小池淳司(神戸大学) 藤井聡(京都大学教授) 発表者: 門間俊之(長崎河川国道事務所所長) 石田弘至(鳥根県土木部)
3	インフラ整備は平和構築の推進にどう貢献できるか	How and what infrastructure development can contribute to peacebuilding promotion activities?	西宮 宜昭(独立行政法人国際協力機構(JICA)中国国際センター所長)		平和構築の発信基地及び研究拠点である広島で本研究発表会が開催されるため、今まで十分に議論・研究の蓄積がなされていない平和構築とインフラ整備の関係について、発表と議論を行う。論文提出があまり期待できない状況もあり、本セッションは平和構築にけるインフラ整備の現状について基調報告の上、議論をパネルディスカッションで行い、インフラ整備が平和構築に果たす役割・その方法を見出し、さらに今後必要な研究内容を抽出する。双方ともマルチセクターでの対応が必要なため、パネラーには土木(計画)以外セクターの有識者も招聘する予定。	西宮宜昭(独立行政法人 国際協力機構(JICA)中国国際センター所長) 花岡伸也(東京工業大学理工学研究科開発工学専攻 准教授) 加藤浩徳(東京大学工学系研究科社会基盤学専攻 准教授) 中矢礼美(広島大学国際センター及び教育学研究科 准教授) 香川めぐ(広島大学国際協力研究科研究員)
4	交通モード横断的に交通現象を考える	Discussion on traffic behavior of various transportation mode.	大口敬(東京大学生産技術研究所)	野中康弘((株)道路計画)	SS提案の趣旨:道路上の自動車流、鉄軌道上の列車流、鉄道駅ホーム・エスカレーター・階段・コンコースなどにおける歩行者流、空港における飛行機の離発着処理、港湾における船舶や荷さばき処理など、交通の主体や施設が異なる「流れ」については、各分野独立に研究・調査が行われ、相互交流は必ずしも活発ではない。本SSIは、渋滞・滞留、混雑、遅延、時間信頼性、オペレーションなどをキーワードに、道路、鉄道、空港、港湾、という4分野の研究者を一同に会し、相互の知見の共通項や異なる部分を相互認識し、また共通性と異質性が生じるメカニズムなどについて、広く会場参加者も交えて議論を深めることを目的とする。	野中康弘((株)道路計画) 大口敬(東京大学) 平田輝満((一財)運輸政策研究機構・運輸政策研究所) 坂下文規((株)社会システム) 加納敏幸(独法)海上技術安全研究所物流研究センター) 山下良久((株)社会システム) 葛西誠(東京理科大学)
5	多様なパーソナルモビリティの通行帯と共存方策	Road space and compatibility of various personal traffic modes	金 利昭(茨城大学)		今やっと、「普通の自転車」の利用環境整備を推進する機運が高まってきた。しかし世の中には、自転車以外のパーソナルモビリティが多数出現している。ちょっと変わった自転車(タンデム自転車、子供乗せ自転車、ハンドバイク等)から電動四輪車、小型電動原付、セグウェイ、超小型自動車まで、これらのパーソナルモビリティはどこを通行させ、どのように共存させればよいのか? 実験的な試みをしている国内事例から論点を提供していただくとともにEU諸国の最新動向を紹介し、道路空間のあり方を自由に議論したい。	1. 司会者・SS趣旨説明 金利昭(茨城大学) 2. 話題提供 (1) 電動四輪車 藤原章正(広島大学大学院) (2) セグウェイ 森川高行、山本俊行(名古屋大学大学院) (3) 二輪車 高田邦道(日大名誉教授) (4) EUにおけるPMの法的位置づけ 古明地哲夫(三菱総研)、吉田長裕(大阪市立大学大学院)
6	自転車の安全で快適な利用環境の創出—ガイドラインの活用—にむけて—	Future of bicycle-friendly infrastructure after publishing the Guideline	久保田尚(埼玉大学)	山中英生(徳島大)	平成24年度に発出されたガイドラインを受けて、今後の自転車環境について展望することを目的とする。 パネルディスカッションでは、まず、国交省と警察庁より、ガイドラインのポイントについて解説して頂く。続いて、ガイドラインの元となった提言をまとめた委員会の元委員から、提言の意義や議論の経緯などを説明して頂く。その後、ガイドラインの趣旨に合致した整備を先行的に行っている地域(静岡等)の自治体等から、整備の状況について述べて頂くとともに、ガイドラインを受けて整備に取り組みしている地域(名古屋等)から、意気込みを語って頂く。 これらを踏まえ、後半では、今後の自転車環境の展望について自由に討議する。	オーガナイザー: 久保田尚(埼玉大) 山中英生(徳島大) 発表者: 室永武司(予定)(国交省) 福山邦之(予定)(警察庁) 屋井鉄雄(東工大) 三国成子(地球の友・金沢) 小林成基(NPO自転車活用推進研究会) 伊藤博文(予定)(国交省名古屋国道事務所) 太田聡(予定)(国交省静岡国道事務所)
7	交通関連ビッグデータに基づく調査体系の再構築並びに政策評価の可能性	Restructuring Travel Survey Methods and Making Policy Evaluations based on Transportation Big Data	藤原 章正(広島大学大学院)	羽藤 英二(東京大学大学院)	本スペシャルセッションでは、急速に蓄積が進んでいる交通関連ビッグデータに関する集中的な議論を行う。具体的には、1. 交通調査体系の中にどのように位置づけることができるのか、2. 政策評価や交通計画策定にどのように活用できるのか、などといった課題について、今後の展望を踏まえ、研究者、行政、データプロバイダー、コンサルタント等の各立場から問題提起を行い、包括的な議論を行いたいと考えている。「交通関連ビッグデータの社会への実装研究小委員会」が主催して実施する。	井料 隆雅(神戸大学大学院) 貝戸 清之(大阪大学大学院) 足立 龍太郎(センリンドータコム) (調整中)(国土交通省)

番号	SS部門名	SS部門名(英文訳)	主オーガナイザ	副オーガナイザ	SS概要(300字以内)	発表者全員の氏名
8	モビリティ・マネジメントの今後の展開を考える ～本音で語る、これから～	Mobility Management toward next decade	神田 佑亮(京都大学大学院)		モビリティ・マネジメント(MM)が我が国に導入され導入されて10年以上が経過した。職場や居住者を主な対象に、基礎的な技法が確立されるとともに、事例も蓄積されてきた。そして、当初で適用事例が多かった公共交通利用促進や渋滞対策の枠を超え、教育、観光や自転車、まちづくりなど、適用対象が多様化してきている。また、人々のライフスタイルにより長期間で形成された意識や行動、習慣を、短期で変容を図ることは容易ではなく、中長期的な施策の展開のためのMMのあり方も議論の余地が大きい。このSSでは、MM施策の意義を再度考えるとともに、持続可能なMM展開について実践的な知見も踏まえつつ議論することを目的とする。	オーガナイザー: 神田佑亮(京都大学大学院) 発表者: 松村暢彦(大阪大学大学院) 鈴木春菜(山口大学大学院) 飯野公央(鳥根大学・松江市公共交通利用促進市民会議) 高田俊哉(松江市) 大井元揮(一般社団法人 北海道開発技術センター)
9	土木計画学分野における研究意図に関する省察	Introspection about the intention in the Researches of Infrastructure Planning	佐々木邦明(山梨大学)	白水靖郎(中央復建コンサルタンツ)	土木計画学とは土木計画の学であり、そして、土木計画とは土木についての計画を意味している。さらには土木とは、「築土構木」、すなわち「民の安寧を企図し、民や共同体の環境を整えていく営為」に他ならない。したがって、「全て」の土木計画学研究は、「民を濟う」ことを直接間接に「意図」したものでなければならない。本スペシャルセッションでは、こうした認識のもと、昨今の土木計画学の諸研究の「意図」について、自他の経験を含めながら包括的に省察、考察するものである(本SSでは、自立を企図している若手研究者および、真のプロフェッショナルを目指す若手実務者の参加を強く希望しています)。	発表者: 藤井聡(京都大学) 小池淳司(神戸大学) オーガナイザー: 白水靖郎(中央復建コンサルタンツ) 佐々木邦明(山梨大学)
10	地区交通安全と歩行空間のバリアフリー/ユニバーサルデザイン	Traffic Calming and Barrier free/Universal Design in Residential Area	竹内伝史(名古屋都市センター・研究顧問 岐阜大学名誉教授)	橋本成仁(岡山大学大学院環境生命科学研究科)	生活関連経路や新たな公共的空間の整備におけるバリアフリー化を進展させる制度的な基盤が整った。しかし地域によっては、歩車分離された道路が十分に整備されておらず、生活関連経路の指定が難しいという課題がある。ドアツードアの円滑な移動を考えれば、生活道路として活用されている住宅地内の地先道路における交通安全は重要な課題となる。生活道路の交通安全についても、ゾーン30の導入などの取り組みが進められているものの、多くの課題を抱えている。こうした背景から、当セッションでは、生活道路のバリアフリー、ユニバーサルデザインを、交通静穏化とともに考えるべき課題と認識し、よりよい生活道路の実現について議論を行う。	竹内伝史(岐阜大学 名誉教授) 久保田尚(埼玉大学 教授) 秋山哲男(北星学園大学 客員教授)
11	BF,UDからのステップアップ～移動・交通環境整備の新たな理念構築	Reconstruction of concepts on the Accessibility Improvement with continuous spiral-up	山田 稔(茨城大学)	横山 哲(株式会社 ドーコン)	2000年の交通バリアフリー法以来、さまざまな法制度や事業手法が定着し、ハード・ソフトの両面で高齢者や障がいをもつ人々の移動環境の改善が進められてきた。しかしなお効果の不十分な場面・人が残されるため、継続的なスパイラルアップが必要とされて来ている。このような進化の重要性について、社会一般の理解は未だ十分とは言えない。こういった現状を打開するため、改めてバリアフリー整備に求められるべきアウトカムは何なのか、またそれを得ることの社会的意義は何なのかを明確にするとともに、これまでの優れた取り組み事例をレビューし、移動の権利を保障することへの理解がそれらのなかでどのように進んでいるかを示す。	山田稔(茨城大学) 横山哲(株式会社 ドーコン) 石塚裕子(大阪大学) 猪井博登(大阪大学) 北川博己(兵庫県立福祉のまちづくり研究所) 鈴木克典(北星学園大学) 寺内義典(国士舘大学) 三村泰広(豊田都市交通研究所) 柳原崇男(近畿大学) 吉田樹(福島大学)
12	社会基盤整備と市民生活	Infrastructure Improvement and Citizen Life	張 峻屹(広島大学大学院国際協力研究科)	大森宣暁(東京大学大学院工学研究科)	本SSでは、社会基盤整備と市民生活との関係、市民のQOL向上を目指すインフラ整備などに関する最新の研究成果、実務的な取り組み事例を募集する。特に、学際的な視点、部門横断的な視点に立つて、プランニングという「上目線」の考え方から、サービスの提供を通じての市民価値の実現という「下目線」の考え方へとパラダイムシフトを図るための新たな方法論(調査方法、データフュージョン、市民生活行動モデル、QOL指標化など)や部門横断型政策の研究事例などを募集する。セッションでは、市民生活の視点に立った真に必要な社会基盤の整備方法、真の市民工学「Civil Engineering」への新たなアプローチについて議論する。	張峻屹(広島大学大学院国際協力研究科) 今野水己(株式会社三菱総合研究所) 神田佑亮(京都大学大学院工学研究科) 小林敏生(広島大学大学院医歯薬保健学研究院) 谷本圭志(鳥取大学大学院工学研究科) 中村隆行(広島NPOセンター)
13	交通まちづくりの計画手法～都市交通調査の潮流～	Methods of Transportation Planning for 'Machizukuri' -Trend on Urban Transportation Surveys-	原田昇(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)	溝上章志(熊本大学大学院自然科学研究科環境共生工学専攻)	まちづくりに貢献する交通計画「交通まちづくり」は、問題解決型ではなく、望ましい生活像を提案する価値創造型の計画であり、その実現のためには従来手法と発想の異なる新しい計画手法(ビジョン構築、調査体系、制度設計など)の開発が必要である。本スペシャルセッションでは、ボトムアップ型の交通まちづくりのビジョン構築のための総合的な交通調査手法を議論したい。具体的には、過疎地の交通まちづくりから大都市の総合交通戦略まで、パーソントリップ調査を中心に居住意向調査、オールラブルヒストリー調査、プローブパースン調査など様々な調査手法を取り上げ、報告と議論を行う。	山中英生(徳島大学) 牧村和彦(一般財団法人 計量計画研究所) 平石浩之(株式会社 日本能率協会総合研究所) 青野貞康(東京大学) 羽藤英二(東京大学)